

利用者名：医療保健学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 講師 大野 勘太



Title:	Measurement properties of the DASH questionnaire across upper extremity disorders: A COSMIN systematic review
論文名 (和訳)	上肢疾患における DASH 質問票の測定特性：COSMIN に基づくシステマティックレビュー
Authors:	大野勘太（東京工科大学），柴橋広智（東京工科大学），大島颯太（鎌倉リハビリテーション聖テレジア病院），清家庸佑（高知県立大学），池田晋平（湘南医療大学）
Journal:	Journal of Hand Therapy
掲載年月	2026 年 9 月

研究概要：DASH は、上肢の障害が日常生活に及ぼす影響を患者自身が回答する質問票であり、臨床や研究で広く使用されています。しかし、疾患が異なっても結果を信頼して解釈できるかについては、十分に整理されていませんでした。本研究では、国際的な評価指針である COSMIN に基づき、146 編の研究を体系的に検討しました。その結果、DASH の信頼性や、症状・機能の変化を捉える能力は概ね支持されました。一方、質問項目の構造や、言語・文化の異なる集団間で同じように測定できるかについては、検証が不足していました。本研究は、DASH を適切に使用・解釈するための根拠と、今後優先すべき研究課題を示しました。

研究背景：上肢のリハビリテーションでは、関節の動きや筋力だけでなく、患者が日常生活で感じる困難を把握することが重要です。DASH はその評価に広く用いられていますが、従来のレビューは特定の疾患や短縮版の QuickDASH に焦点を当てたものが多く、原版 DASH の測定特性を複数の上肢疾患にわたって包括的に比較した知見は限られていました。そこで本研究では、研究の質も考慮しながら、DASH が何をどの程度確かに測定できるのかを検討しました。

研究成果：COSMIN の指針に従い、DASH の妥当性、信頼性、測定誤差、反応性などに関する 146 編の研究を評価しました。さらに、十分な研究数があった上肢疾患全般、肩関節疾患、手根管症候群、関節リウマチ、橈骨遠位端骨折について疾患別に検討しました。

その結果、DASH の回答の一貫性と繰り返し測定した際の信頼性には、複数の疾患で強い根拠が認められました。患者の状態や経時的な変化を捉える妥当性・反応性も概ね支持されました。一方、質問項目が想定する構造を十分に検証していない研究があり、異なる言語・文化の集団間で得点を同じように比較できるかについても、根拠が不足していました。疾患別に見ることで、橈骨遠位端骨折など、特定の測定特性の検証が乏しい領域も明らかになりました。

社会への影響：患者の声を治療や研究に反映するには、質問票の得点を正しく解釈できることが欠かせません。本研究は、DASH を上肢疾患の評価に用いる根拠を整理するとともに、文化や疾患が異なる集団への適用には慎重な検討が必要であることを示しました。臨床家が評価法を選び、患者の経過を判断する際に役立つほか、今後の質問票の検証研究や、国際的な研究結果の比較にも資する成果です。

専門用語：

DASH：Disabilities of the Arm, Shoulder, and Hand の略。腕・肩・手の症状や、日常生活での動作の困難さを患者自身が回答する質問票。

測定特性：評価法が意図した内容を測れているか、繰り返しても安定した結果が得られるか、状態の変化を捉えられるかなど、評価法の性能を示す性質。

COSMIN：健康状態を測る質問票などの測定特性について、研究の質と結果の根拠を体系的に評価するための国際的な指針。

システマティックレビュー：あらかじめ定めた方法に従って関連研究を収集・評価し、知見を統合する研究方法。

反応性：患者の状態が変化したときに、評価法がその変化を捉えられる性質。